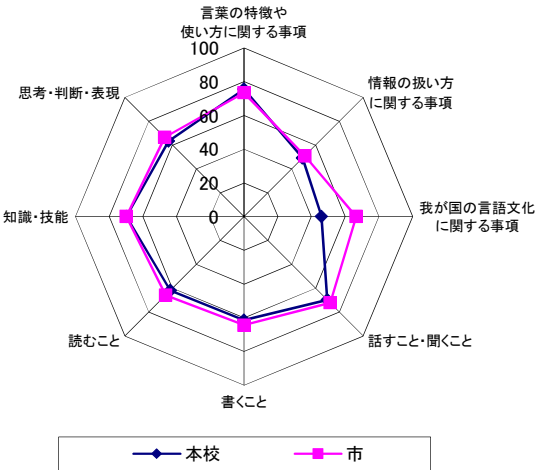


宇都宮市立細谷小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.6	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	49.2	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	46.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	69.8	72.3	73.7
	書くこと	61.4	64.3	66.6
	読むこと	61.9	65.8	64.9
観点別	知識・技能	69.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	63.3	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

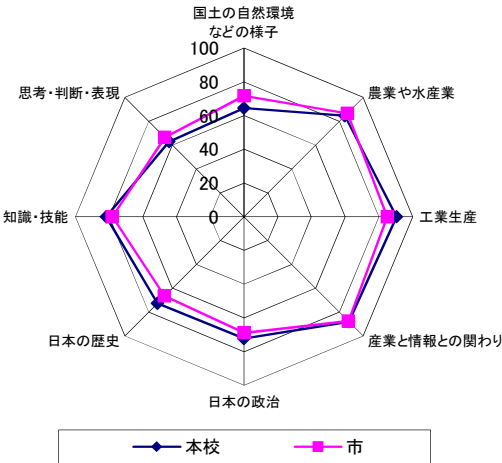
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	○言葉の特徴や使い方にに関する事項の平均正答率は75.6%で、市よりも2.1ポイント高かった。漢字の読み書きに関する設問では、市の平均正答率を全ての設問で上回った。 ●文と文の接続の関係や敬語の使い方などに関する設問では、全体的に平均正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を定期的に復習したり、日常から使う意識をもたせたりすることで、さらなる定着を図る。語彙力を高めるための読書活動を引き続き推進していく。 ・自分の意見や考えを段落を意識して文章に表すことができるように指導していく。朝の学習や宿題を通して漢字以外の言語に関する問題に取り組ませていく。
情報の扱い方 に関する事項	○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章に表す設問の正答率は、54%であり、市の平均正答率を2.7ポイント上回った。 ●情報の扱い方にに関する事項の平均正答率は49.2%で、市を1.8ポイント下回った。情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問の平均正答率は、市よりも6.3ポイント低かった。	・説明的文章を読み取る中で、いくつかの情報の中から必要なものを選び、組み合わせる活動や整理する活動を指導していく。また、読み取りの基礎となる音読や意味調べなどの学習を、これまで以上に重点的に指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての理解を問う設問の平均正答率は46%で、市より約20ポイント低かった。	・漢字の学習では、音読み、訓読みを意識的に押さえるようにし、漢字や熟語を意味を理解しながら練習するような学習方法を取り入れていく。 ・言葉の語源や、どのようにして伝わってきたかなどについて調べる活動を取り入れ、語句に対する関心を高めるとともに、理解が深まるようにしていく。
話すこと・聞くこと	○インタビューにおける話の内容を聞き取る設問の平均正答率は93.7%であり、市を若干上回った。 ●話すこと・聞くことの平均正答率は69.8%で、市を2.5ポイント下回った。自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、平均正答率が39.7%で、市より6.7ポイント低かった。	・話し合い活動において、自分の考えと友達の考えを比較しながら聞くことができるように指導していく。 ・朝の1分間スピーチや係活動を有効的に活用し、自分の意見を明確にもたせ、その内容を分かりやすく伝えたり、文章に表現したりできるような活動に慣れさせていく。
書くこと	○自分の意見とその理由を明確にして書く設問では、平均正答率は88.9%で、市よりも3.7ポイント上回った。 ●書くことの平均正答率は61.4%で、市を2.9ポイント下回った。段落の役割を理解し、2段落構成で書く設問では、平均正答率が49.2%で、市よりも14ポイント下回った。	・段落構成については、構成メモなどを活用し、文章を書く際の段落の整え方を繰り返して指導していく。 ・感謝状などを書く活動とも関連させ、段落を意識した文章を書く力を身に付けさせていく。
読むこと	○物語の内容を読み取る設問については、どの設問も70%以上の平均正答率であった。 ●読むことの平均正答率は61.9%で、市の平均正答率を3.9ポイント下回った。特に説明的文章における文章全体の構成を捉える設問や、文章の情報を整理する設問についての平均正答率が低かった。	・説明的文章の読み取りでは、段落のまとまりを意識して文章を読み取る活動や、中心となる語句に着目して要旨を読み取る活動を引き続き行っていく。 ・音読については読みの基礎となるので、家庭との連携を充実させ、個々の力を一層高められるようにしていく。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.4	71.6	69.6
	農業や水産業	84.7	86.7	83.7
	工業生産	90.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	88.1	87.7	77.4
	日本の政治	72.2	68.9	71.7
	日本の歴史	72.6	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	62.9	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

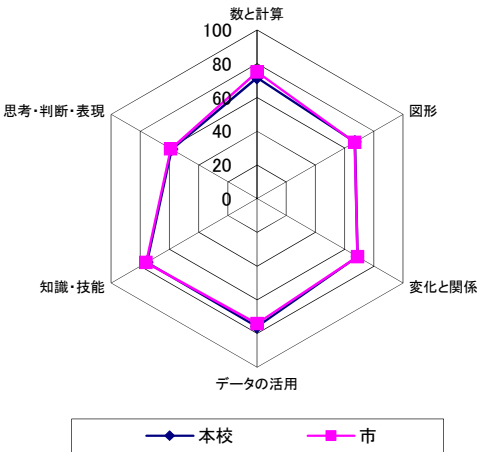
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○「日本の主な地形の名称」を問う問題においては、市の平均を0.6ポイント上回っている。 ●市の正答率を7.2ポイント下回っている。特に、「沖縄県での自然環境を守る取り組み」を問う問題においては正答率が61.9%と、市の平均を18.8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学んだことを新聞等にまとめたり、朝の学習で復習したりすることで知識が定着するようにしていく。 ・我が国の国土について興味・関心を高められるよう、資料や一人一台端末を活用する。
農業や水産業	○「米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断する」問題においては、市の平均を1.6ポイント上回っている。 ●市の正答率を2.0ポイント下回っている。特に、「水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する」問題においては正答率が82.5%と、市の平均を5.7ポイント下回っている。	・身近な農業や水産業について、ニュースや新聞、インターネットなどを活用して複数の情報を紹介するなどし、自分たちが住んでいる日本について興味・関心を高められるようにしていく。 ・複数の資料を関連付け、正しく読み取る思考力を高めるために課題解決型の学習を授業に取り入れていく。
工業生産	○市の正答率を5.5ポイント上回っている。特に、「自動車の製造工程」を問う問題においては、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ●「日本の工業の特色について、資料をもとに表現する」問題では、市の平均を上回っているものの、正答率が81.0%と他の問題に比べて低かった。	・自分たちの身の回りにある工業製品に着目させ、児童が自分の生活との関わりを意識できるように指導を工夫していく。 ・資料から読み取ったことを、自分の言葉でまとめる活動を多く設定していく。
産業と情報との関わり	○市の正答率とほぼ同程度である。「さまざまなメディアの特徴」について考える問題においては、98.4%と高い正答率である。 ●「情報の発信と受信の注意点」を問う問題においては、市の平均を1.3ポイント下回っている。	・情報モラルやデジタル・シティズンシップの考え方と関連させながら、産業と情報との関わりについて実感を伴って考えさせるようにしていく。 ・学校生活全体を通して、一人一台端末等の利便性と危険性について指導していく。
日本の政治	○市の正答率を3.3ポイント上回っている。特に、「天皇の地位」について問う問題においては、73.0%の正答率を示しており、市の平均を10.0ポイント上回っている。 ●「国民と国会と内閣の関係についての理解をもとに、図を読み取る」問題では、市の平均を3.2ポイント下回っている。	・ニュース番組を見たり、新聞を読んだりする習慣をつけて、政治に関する興味・関心を高められるようにしたい。また、政治に関する重要語句について、その意味を丁寧に説明し、理解を深めていく必要がある。
日本の歴史	○市の正答率を5.9ポイント上回っている。特に、「大王」について問う問題では、市の平均と比べ20.9ポイント上回っている。 ●「元との戦いについての理解をもとに防塁について表現する」問題では、22.2%と市の平均を6.3ポイント下回っている。	・協働する学習活動を積極的に取り入れ、歴史上の人物が行った取り組みや出来事、各時代の文化について、友達と話し合いながら理解を深め、表現力を高められるようにする。 ・資料を活用しながら新聞等にまとめる活動を多く設定し、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.7	75.1	75.8
	図形	67.1	66.8	68.3
	変化と関係	68.8	68.8	65.0
	データの活用	76.0	74.1	63.6
観点別	知識・技能	75.4	76.1	75.8
	思考・判断・表現	58.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

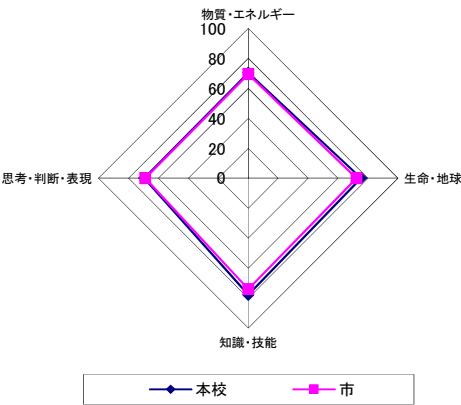
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数×分数の問題では、正答率が90.5%で、市の正答率83.7%より6.8ポイント高かった。 ●分数の通分をする問題では、正答率が57.1%で、市の正答率73.6%より16.5ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・本校独自の計算オリンピックを効果的に活用し、四則計算の演習を繰り返したり、既習事項の復習などを行ったりすることで、基礎、基本となる計算力の定着を図る。 ・文字の式においては、数字を文字に置き換えた時に、難しさを感じる児童が多くいるように考えられる。既習の学習を用い、○や△を使った式や計算を、丁寧に説明・確認しながら、易しい問題を解くことで慣れさせたい。
図形	○合同な三角形を作図する問題では、正答率が93.7%で、市の正答率88.3%より5.4ポイント高かった。 ●三角形の外角を求める問題では、正答率が66.7%で、市の正答率72.7%より6ポイント低かった。	・問題解決学習を取り入れるとともに、重点的に練習問題を解く時間を増やし、定着させられるように工夫して指導する。 ・多角形の内角の和の求め方や展開図の見取り方、合同な図形の作図などについて、既習事項の復習を継続して行うようにする。
変化と関係	○速さと道のりから時間を求める問題では、正答率が84.1%で、市の正答率79.4%より4.7ポイント高かった。 ●表から面積と数の割合を求め、考察する問題では、正答率が68.3%で、市の正答率73.4%より5.1ポイント低かった。	・割合や単位量当たりの大きさ、速さは5年生での学習内容ではあるが、苦手意識をもつ児童が多い単元のため、プリントや一人一台端末を用いて復習の機会を設けるようにする。 ・比例や反比例の関係について、伴って変化する数値から見いだした特徴を基に、変化と対応の規則性について考察するなど、課題の解き方を確認する。
データの活用	○データから最頻値を求める問題では、正答率が85.7%で、市の正答率80.6%より5.1ポイント高かった。 ●データを度数分布表に表す問題では、正答率が82.5%で、市の正答率85.9%より3.4ポイント低かった。	・中央値や最頻値などについて、身近なところから考えられるような活動を取り入れるなどして、活用の仕方についての理解や、活用方法の定着を図りたい。 ・6年間で学習した様々なグラフの特徴を整理し、目的に合わせてグラフを選び、表したり読み取ったりする活動を取り入れるようにして、グラフを適切に活用できるよう、工夫して指導していく。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.4	69.5	65.2
	生命・地球	75.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	77.8	74.0	70.7
	思考・判断・表現	69.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○物質・エネルギーの平均正答率は70.4%で、市を0.9ポイント上回った。気体の体積の割合を答える設問の平均正答率は82.5%で、市を12.6ポイント上回った。○水溶液の性質について答える設問では、平均正答率が84.1%で、市より約10ポイント高かった。●物を溶かす実験の条件制御の誤りを考える設問における平均正答率は46.0%で、市よりも6.7ポイント低かった。●電流の向きを変えたときの電磁石の性質に関する設問では、平均正答率は47.6%で、市を10.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・観察・実験において、「なぜ」から生まれるねらいを明確にすることで、問題意識をもって進んで調べられるようにする。また、実感を伴った学習活動を展開し、結果を基に考察させ、理解を深められるようにする。 ・観察・実験時に使う用語や用具の操作、実験方法など、基礎・基本の定着を図るとともに、めあてに即した振り返りに力を入れる。 ・他教科や他単元との関連を図り、学習して得られた力を多方面で活用できるようにする。
生命・地球	○生命・地球の平均正答率は75.4%で、市を3.1ポイント上回った。流れる水のはたらきの侵食について答える設問では、平均正答率は90.5%で、市を約20ポイント上回った。○肝臓のはたらきについて答える設問や、ダイコンを保存するために茎や葉を切る理由を考える設問における平均正答率は、どちらも市より10ポイント以上高かった。●和歌が詠まれたときの月の形を考える設問の平均正答率は25.4%で、市を7.4ポイント下回った。●ヒトの消化管に関する設問では、平均正答率は54%で、市よりも16%低かった。	・課題のねらいや観察・実験の方法を正しく捉えさせ、十分に自分の予想や仮説を立ててから観察・実験等に臨ませる。また、結果から自分なりの考えを導き出せるよう、考察する時間の確保に努める。 ・実際の観察・実験が困難な単元や、継続的な観察・実験が効果的な単元は、引き続き模型やICT機器等を活用し、分かりやすい授業展開に努める。 ・他教科や他単元との関連を図り、定期的に復習する時間を確保していく。 ・今学習していることが、自分の生活に結びついていることを振り返らせる場を意図的に設定し、科学的事象への興味・関心を高めていく。

宇都宮市立細谷小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の基礎・基本の定着を図り、できた喜びが学ぶ意欲へとつながる指導の工夫。	・授業における児童のよさを認め励ます支援を充実させる。 ・学ぶ意欲を喚起する指導の充実を図る。 ・ねらい、まとめの明示など、分かりやすい板書の工夫を行う。 ・朝の学習の充実を図る。(漢字・計算・読書) ・学習したことを復習する家庭学習の仕方などを提示する。 ・ICTの積極活用による学びの深化を図る。 ・漢字・計算オリンピックなど、目的をもって努力する機会を作り、達成感が次の学習への意欲につながるようにする。	・「勉強が好きですか。」という質問に対して、本校の肯定割合は、1年生が78.5%、2年生が86.3%、3年生が67.8%、4年生が83.8%、5年生が50.7%、6年生が55.4%であり、2、4年生は、市の肯定割合より高く、1、3、5、6年生は、市の肯定割合より約4ポイントから10ポイント低かった。 ・国語の基礎問題(知識・技能)の正答率は、69.7%、社会の基礎問題(知識・技能)の正答率は、81.8%、算数の基礎問題(知識・技能)の正答率は、75.4%、理科の基礎問題(知識・技能)の正答率は、77.8%だった。社会、理科は市の平均より約2～4ポイント高かった。国語、算数は市の平均よりわずかに低かった。引き続き6年生までの積み上げを意識して、指導・支援を続けていきたい。
互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫。	・自己有用感に着目した授業づくりの研究を進め、一人一授業の公開を実施する。 ・「学習の約束」を定着させ、教師や友達の話をよく聞き、落ち着いて学習する環境を整える。 ・ペアやグループ学習で学び合いの場を確保するなど、主体的・対話的な学びを獲得できるようにする。 ・目的を明確にした学び合いのコーディネートを行う。	・「グループでの話合いに自分から進んで参加していますか。」という質問に対して、本校の肯定割合は、1年生が86.1%、2年生が79.5%、3年生が70.1%、4年生が86.3%、5年生が82.2%、6年生が89.2%だった。市の平均より1ポイントから8ポイント高かった。 ・「先生や友達の話最後までちゃんと聞いている。」という質問に対して、本校の校内肯定割合は、1年生が89.9%、2年生が93.2%、3年生が90.8%、4年生が96.3%、5年生が97.3%、6年生が93.8%だった。4、5年生は市の平均より高かったが、1、2、3、6年生は市の平均より低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

本校では、主体的・対話的で深い学びの実現のために、「自己有用感を高める授業づくり」に取り組んで来た。学習指導や家庭学習の仕方の提示などとともに、対話活動を取り入れた授業づくりを研究したことで学習に進んで取り組む姿が見られるようになってきた。今後はさらに、学習課題の難易度の吟味や、提示の仕方の工夫など、児童が自分の課題を見つけ、より主体的に解決できる授業づくりに向けて、研究を進めていきたい。